

# スペイン語 サマープログラム

# Spanish

サマープログラム スペイン語 ラス・アメリカス大学 [メキシコ]

プログラム期間  
2019年8月10日(土)~9月9日(月)

## 報告

立林 良一 准教授

2019年のスペイン語サマープログラムは、メキシコ第三の都市プエブラの郊外にあるラス・アメリカス大学で4週間にわたって実施されました。毎日9時から1時半までメキシコ人のアルフォンソ先生によってスペイン語だけで進められる授業を受け、大学のカフェテリアでの昼食をはさんで3時から日替わりでラテンダンスやメキシコ料理の講習、近隣の遺跡や教会の見学、メキシコ人学生との会話サークルといった文化的プログラムに参加しました。

テオティワカンのピラミッドとメキシコシティの歴史地区を訪れる日帰り旅行と、南部のオアハカと、その近郊にあるモンテ・アルバン遺跡



を訪れる1泊2日の旅行によって、この国への理解と興味が一層深まったようです。また、4週間のホームステイを通してメキシコの日常生活を体験できるのも、このプログラムの大きな魅力です。最初のうちはスペイン語での意思疎通に苦労していましたが、帰国する頃には皆、温かく迎え入れてくれたホストファミリーと別れがたい気持ちになっていました。感受性豊かな若い時期のこうした異文化体験は、人生観を広げるうえで間違いなく大きな意味を持ちます。1人でも多くの人に積極果敢に未知の世界に飛び込んでもらいたいと願っています。



## 積極性を持って過ごした充実した時間

### 1. 一番苦労した点・それを乗り越えた方法

メキシコで現地の人とコミュニティを築き、コミュニケーションをとることだ。学校では、同志社大学生のみの特別授業であったが、他大学生徒のコミュニティを築くことは難しかった。しかしホームステイだった為、家族との関係性を重要視することに決めた。例えば学校での出来事、放課後での出来事の写真を材料にする等、家族に見せながら会話を弾ませることに成功し、スペイン語を通して、良い関係性に導くことができたと思う。

### 2. 一番自分が成長したと思う点(語学力・精神面等)

スペイン語を話そうとする積極的な精神だ。初めの1週間は、英語でもない言語を話すことに慣れておらず、家族が自分に何を提案してくれているのか、はい、いいえの自分の意思すら曖昧で伝えることに苦労した。授業でも、初めは理解するのも困難だったが、毎日スペイン語で日記を書く、必ず食事の後には家族と話す、話の内容が理解できない時は恥だと思わず、何度も聞き直す等、強い精神が必要であると気付き、残りの短い時間をいかに成長して帰国することができるかを考えることで、有意義な時間を過ごせたように思う。



### 3. 今後卒業後(就職/大学院進学等)どのように今回留学した経験を活かしたいか

日本では、困難に直面したとしても、頼れる相手に相談することができる。しかしメキシコでは、その相談もできず、自分で考え行動に移した場合、自己責任を同時に伴う。責任について考えることで、物事を多面的に見つめ直し、的確に判断する力を身に付けることができた。この臨機応変に対応する力と、物事をじっくり考察する力は、何か困難に直面した時も、動じずに自分らしさを武器に問題に取り組むことができるのだ。そのため、このメキシコで培った能力を、社会で活かしていきたい。

### 4. その他(本プログラムへの参加を検討している・参加を迷っている方に向けたアドバイス等)

メキシコは危険な国だと言われる。確かに危険な国であり、注意深く生活する必要はあるが、安全な国だと言われる日本での生活に慣れているからこそ、日本を客観的に見つめる良い機会になると私は考える。新しい視野を構築できるようになるし、新たな考え方も生まれるようになると思う。この経験は私の中で、大きな財産となっている。皆さんにもぜひ、新たな視野と経験を築いてほしい。

